

## 第 22 回目 教会を通して

〔聖書箇所〕【新改訳改訂第 3 版】3 章 10～13 節

- 10 これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、
- 11 私たちの主キリスト・イエスにおいて実現された神の永遠のご計画に沿ったことです。
- 12 私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができるのです。
- 13 ですから、私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようお願いします。私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの光栄なのです。

●「教会を通して」と訳されていることばは、by the church/ by means of the church つまり、「教会によって」「教会という手段を用いて」という意味です。エペソ人への手紙の主題は「教会」です。神はご自身の造られた教会(神の作品)を通して、ご自身の計画を実現し、栄光を現わされます。ですから、私たちはひとりひとりが教会の存在目的を正しく理解し、与えられている権威と特権を知ることが必要です。パウロは、使徒の中でも特別に、教会の奥義を直接的に啓示された人でした。

●パウロは「教会」をさまざまな比喩—「キリストのからだ」「神の作品」「新しいひとりの人」「神の家族」「(神の御住まいとしての)聖なる宮」—で表わしていますが、いずれもキリストなしには存在し得ないのが教会です。神はこの教会を通して神の豊かな知恵、すなわち神の救いのご計画を実現しようとしておられるのです。私たちはその実現のために神に呼び集められた者たちなのです。「教会」と訳されたギリシア語は「エックレーシア」(ἐκκλησία)で、それは「神に呼び集められた者たちの集まり」を意味します。だからと言って、「教会」という訳語が良くないということにはなりません。なぜなら、使徒パウロがエペソの教会の長老たちを集めて訣別説教をした中で、パウロが「**神の恵みの福音**」をあかししてきたことを述べています(使徒 20:24)。そのことをエペソ書 3 章 8 節では、「**キリストの測りがたい富を宣べ伝える**」と表現しています。しかし同時にパウロは、「神の恵みの福音」だけでなく、「**御国の福音**」を余すところなく教えてきたのです。この「御国の福音」は教えられてはじめて知ることができます。教会には宣教という働きがありますが、同時に教育という働きがあることを忘れてはならないのです。それは、神のご計画を知るための教育であり、聖書全体を学ぶことなのです。その意味では、エックレーシアを「教会」と訳すことは決して間違っていないのです。むしろ、教会は神のご計画をしっかりと学ぶところなのだという新たな意識づけが必要です。

### 1. 教会の存在目的 (存在の意義)

●前回のエペソ人への手紙 3 章には、何度も「奥義」ということばが出てきました。これは特に使徒パウロに対して明らかにされた神の啓示の内容を意味します。また同時に、神から直接に(人を介することなく)示されることを「啓示」といいますが、このことばもパウロの専売特許です。

## אגרת שאול אל האפסים

●パウロに啓示された奥義(神のミステリー)の内容は、「**キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同相続人となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。**」…特に「異邦人もまた」「ともに」ということをパウロは使徒たちの中でも、最も正しく理解したのです。それゆえ、彼は異邦人伝道をし、その成果を上げたことによって、迫害を受けたのです。そしてまた、キリストのために实际的に「囚人」となったわけです。

●「ともに」とは、ユダヤ人と異邦人のことです。神の世界では、ユダヤ人と異邦人の区別しかありません。いうならば、すべての者が、共同相続人とされ、一つのからだに連なり、神の約束にあずかる者となることができるのです。それを実現してくださったのが、イエシュア・ハマシアッハ(=イエス・キリスト)です。「ユダヤ人と異邦人」というのは、この世界に存在するあらゆる分裂のルーツ(根っ子)です。この問題を正しく理解するならば、はじめて「共に」生きる道が開かれます。ユダヤ人と異邦人の間にある問題は、私と他者とのあらゆる問題のルーツでもあるのです。もし、私と他者にあるさまざまな隔ての壁、その隔ての壁を作り出してしまう自分の罪、その問題に神の恵みと神の知恵と神の愛の光が注がれるとき、はじめて「共に」生きることが可能となるのです。

●パウロは神の奥義を誰よりも正しく理解し、それを実行に移して行った人でした。その「実行」とは何でしょうか。エペソ書 3 章 9 節をいろいろな訳で見ましょう。

【新改訳改訂3】

また、万物を創造した**神のうちに世々隠されていた奥義の実現が何であるかを、明らかにするため**です。

【新共同訳】

すべてのものをお造りになった**神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かし**ています。

【口語訳】

更にまた、万物の造り主である**神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すため**である。

●「明らかにする」「説き明かす」「明らかに示す」と訳されたギリシア語は「フォーティゾー」(φωτίζω)で、「光を照らして明るみに出す」という意味です。このことは教会が持っている重要な働きです。そのためには絶えず聖書を読むだけでなく、研鑽し続ける必要があります。パウロがエペソ書で伝えようとしていることは、長い間、完全に覆い隠されていた神の秘密を教えるためです。それは神のご計画においてきわめて重要なことですから、そこを外したり、避けたりすることは教会を理解する上ではならないのです。むしろ、たえず、繰り返し、教えられなければならないのです。神の秘密に触れることは、私たちを霊的に強めるはずで

●神の奥義を啓示されたパウロは、「教会」という存在意義をだれよりも強調したことはいうまでもありません。奥義を実行に移すパウロの務め—それは、「教会を通して」であることをだれよりも理解していたのです。さらに 3 章 10~11 節を読んでみましょう。

# אגרת שאול אל האפסים

## 【新改訳改訂3】

10 これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、

11 私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた神の永遠のご計画によることです。

## 【新共同訳】

10 こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、

11 これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。

## 【口語訳】

10 それは今、天上にあるもろもろの支配や権威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、

11 わたしたちの主キリスト・イエスにあって実現された神の永遠の目的にそうものである。

●10 節では、教会を通して、「神の豊かな知恵が示されること」、また 11 節には、それは「神の永遠の目的にそったご計画」と言い換えられています。このことは 1 章ですでに書かれています。それによれば、「いっさいのものがキリストにあって一つに集められること」なのです。

- ①「神の豊かな知恵が示される」とは、人間の知恵が及ばないほどの神の知恵に満ちたご計画が示されることを意味します。
- ②「神の永遠のご計画によること」とは、永遠の昔からキリストにあって計画されていたものであり、決して片手間のものではなく、永遠に変わることはない、変更されることのない確かな神のご計画によることを意味します。そして
- ③「いっさいのものがキリストにあって一つに集められること」とは、三位一体なる神の唯一の夢、最大の夢(ドリーム)であることを意味します。教会とは、まさに神の夢を実現するドリームチームなのです。ですから、この永遠の神のご計画が実現されるような構えをもたなければなりません。つまり、神は「教会を通して」しか実現できないことをしようとしているわけです。私たちも「教会」に対する正しい理解をもちながら、神のドリームチームとして、共に建て上げていく必要があるのです。そのためにこそ私たちが神から選ばれたことを忘れないようにしましょう。

## 2. 教会に与えられている権威

●その正しい理解の一つとして、今回のテキストの中に盛り込まれているもう一つの重要なことは、「教会に与えられている権威」についてです。もう一度、テキストの 10 節を読んでみましょう。

これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって

●「天にある支配と権威」とは何を意味するのでしょうか。この「天にある支配と権威」に対して教会の権威が与えられているのです。この「天にある支配と権威」とは、神に逆らうすべての勢力を意味します。エペソ書において「支配、権威、権力、主権」ということばは、すべて神に逆らう勢力—サタンとサタンに従う悪霊たちに対して使われています。検証してみましょう。

## ① 1章 20～21 節

【新改訳改訂第3版】

20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、

21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。

## ② 2章 2 節

そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。

## ③ 6章 12 節

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

●神に逆らい、キリストの救いを阻み、この世の人々に覆いをかけて見えないようにさせ、クリスチャンたちを誘惑したり、キリストの教会の中に争いの種を蒔いて教会を分裂させたり、攻撃してくる敵の力については、聖書のいたるところに触れられています。

●つまり、「今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるため」とは、教会の勝利を宣言することばです。キリストを信じる者は、霊的な覆いが取り払われてサタンの支配から解放され、神の所有となったことを、教会の存在を通して宣言するのです。教会の存在は、サタンとその手下である悪霊から解放された唯一の神の勝利の実態なのです。たとえ、私たちの目にはそうした実態にはほど遠くとも、すでに敵に対して勝利を宣言できる権威が与えられているのです。

●教会はすでに「天にある支配と権威とに対して」勝利を与えられているばかりか、これからも勝利を得ることのできるキリストの権威が与えられているのです。教会は、携拳以外の理由で、この世から無くなることは決してありません。あり得ないのです。もし教会が無くなるなら、神のご計画は実現しないからです。

●イエシュアが弟子たちと共にピリポ・カイザリヤという北の地方に行かれた時、弟子たちに尋ねられました。「人々は人の子（自分のこと）をだれだと言っていますか。」という質問に、いろいろな人がいろいろなことを言っている中で、シモン・ペテロは答えて言いました。「あなたは、生ける神の御子キリストです」と（マタイ 16 章 17 節）。この答えにイエシュアはすかさず「あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩（信仰告白のこと）の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなくなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」と。このイエシュアのことばはとても深い内容をもって、簡単に扱うことができませんが、ペテロ、後の教会の指導者となるペテロに対して、「天の御国の鍵」が与えられるとあります。この「天の御国の鍵」こそ、教会の権威のしるしです。

## אגרת שאול אל האפסים

●それゆえ、教会はその権威の鍵を用いて、キリストのもとに来る人々に救いを宣べ伝えて、信じる者に罪のゆるしを宣言し、洗礼を通して、父と子と聖霊との御名の中(永遠の交わり)に加えることができます。それだけでなく、教会はサタンの策略に対して立ち向かい、神の与える霊的な武具によって強く立つことができます。このことについては、また6章の後半で学ぶことになります。

●賛美歌に、教会の勝利と権威を称える賛美があります。味わいつつ、賛美したいものです。

# 「勝利の冠、罪と死への勝利、主の御名を高く響かせ

すべての悪しき霊 主の御名にふるえる われらは世に勝つ教会

栄光の御名 力の御名 すべてに勝る偉大な御名

イエス様 わが主 わが神」

### 3. 教会の特権

●今回のテキストから教えられるもうひとつのことは、「教会の特権について」です。

3:12 私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができます。

●「私たち」とは、**イエシュアがメシアであることを信じるすべての者たちのこと**です。そこにはユダヤ人も異邦人(ギリシア人)もいます。本来なんら差別も区別もありません。キリストにある者たち、そこには人間が作り出すいっさいの隔ての壁があってはならないのです。そこには富める者も貧しい者も、知識のある者もない者も、障害のある者もない者も、老人も子どもも、すべてがなんら疎外されることなく、共に、神に近づくことのできる特権が与えられています。とりわけ、ユダヤ的なルーツを断ち切ってはなりません。むしろそれを大切にすることによって教会は敵に対してきわめて強い力を持つことができますからです。

●また、使徒パウロに啓示されたキリストの奥義は、自分と他者とのかわりを豊かにしていく道です。神の愛のいのちの豊かさを経験していく果てしない道であり、豊満なかかわりの世界です。それは自分が変えられていくことと無関係ではありません。神からの悟りを与えられて、もっともっとキリストの奥義を深く尋ね求める者とされたいものです。

●教会を通して実現される神のヴィジョンを正しく理解し、また、信仰の先輩たちの姿に倣い、それを実現し、この世にそのすばらしさを明らかにしていく教会となるように祈りましょう。